2019 年度　長老会神学大学校・聖学院大学総合研究所主催 日韓神学シンポジウム 2019（第 9 回　日韓神学者学術会議）

「人間：アジアの人間観と神学的人間論――21 世紀における人間性回復のための統全的収斂」

会場の様子

今回、第 9 回目となる日韓神学者学術会議は、「人間：アジアの人間観と神学的人間論―21世紀における人間性回復のための統全的収斂」をテーマとして2019年11月 8 日に長老神学大学校（韓国・ソウル）にて行われた。日本側の参加者は、清水正之学長、髙橋義文聖学院大学総合研究所名誉教授、柳田洋夫聖学院大学チャプレン、島田由紀（人文学部欧米文化学科）であった。

会議に先立つ 7 日には、任成彬（イム・ソンビン）長老神学大学校総長による歓迎の晩餐会が催され、いつものように長老神学大学校側は熱烈に歓迎の意を表してくださった。2 年前の歓迎会でのことであったが、任総長からは、かつて大木英夫教授が長老神学大学校の元総長の葬儀にわざわざ参列くださったというエピソードが語られた。聖学院の厚情と友情に長老神学大学校が深く感謝し聖学院との交流を大切なものと考えているとのことが今回も繰り返し述べられた。今回の歓迎会の席においても、話題は尽きず、長老神学大学校の教授らが日本の主要な神学者の来歴や活動をよくご存じであることに驚かされた。対するに、日本においては、韓国の神学や教会への関心が総じて薄いままであり、「近くて遠い国」という状況が解消されていない。

7 日の夜には、長老神学大学校の聖歌隊による韓国語のオラトリオの演奏会があり、任総長の招きで島田は演奏を拝聴する機会を与えられた。韓国人作曲家による宗教曲を200人規模の学生聖歌隊と大学校教授でもあるソリストが演奏するというもので、大変な熱演であった。数において安定している韓国キリスト教の文化的な力を感じさせられた。

8 日の午前には全学礼拝に出席させていただいた。1,000名を優に超すと思われる出席者に対し、柳田洋夫聖学院チャプレンが「キリストの愛に立つ」と題して説教くださり、日韓関係が困難な状況にあるからこそ、キリストにあって一つであることを知る恵みを改めて思わされた。この礼拝では 2 人の女子学生が聖書朗読と祈りの奉仕をしてくださったが、あとで聞けば、1 人は在日韓国人、1 人は沖縄出身の日本人であり、2 人とも最近、韓国人男性と結婚し、韓国または世界のどこかで伝道に奉仕したいと願っている、とのことであった。目を輝かせて語る若い姿に「キリストにあって一つ」を改めて思い、日韓のキリスト教の新しい未来への希望を垣間見る喜びを与えられた。

午後の学術会議ではまず、清水学長から「北森嘉蔵『神の痛みの神学』における人間論的側面をめぐって」と題した発題があった。

文語訳エレミヤ書において「腸（はらわた）…痛む」と訳される箇所への洞察から、怒れる神が赦されざる者をそれでも赦し包みたもう痛みにおいて人を愛される、という理解に至った北森の基本テーマを、清水学長は北森の神学的議論において跡づけられた。そのうえで近代日本思想史の観点から、キリスト教に対して何らかの関心と留保を保ちつつ独自の哲学・倫理学を樹立しようとした西田幾多郎と和辻哲郎が「無」を超越的に位置づけて多神性を残しつつ抽象性にとどまったのに対し、北森の神学は具体性の次元にとどまりつつ超越に開かれたものであったことを示唆された。

次に長老神学大学校側からは朴ソンギュ招聘教授より「神学的人間論とアジア的人間論の統全的

発題者　清水正之学長

収斂のモデルとしての一元的人間論」と題した発表がなされた。聖書の人間理解から始まり、バルト、パネンベルク、ブルトマンら20世紀の主要な神学者の人間理解、近代西欧の人間理解、またアジア仏教的人間理解を跡づけられたうえで、霊肉二元的また近代の理性中心主義的な二元的人間理解の弊害を指摘し、機械論的でない一元的人間理解が現代においてますます重要性を帯びていることを論じられた。フロアからも質問が相次いで出され、活発な議論がなされた。

参加者記念撮影

学術会議後には、今後の交流について話し合われた。ここ数年で深まった信頼関係に基づいて、両校それぞれの側でこれまでの交流活動に困難があったことも率直に共有されたが、それを超えてこの学術会議が次回には第10回を迎えることを双方で喜び合い、節目の内容とすることが確認された。

日韓関係に困難のある時期であるからこそ、人格的交わりのある交流を行なう意味を深く感じさせられた。長老神学大学校側の若手教授らからは、さらなる学術交流と学生交流を期待する声も聴かれた。

（報告者：島田由紀［しまだ・ゆき］聖学院大学人文学部欧米文化学科准教授）

本　書籍のご案内

お近くの書店、Amazon.co.jpからお買い求めいただけます。

新　刊

世界社会の宗教的コミュニケーション
——共鳴の醸成

土方 透 編著
G・ヴェグナー、J・ヴァイス、N・ルーマン、清水正之 著

2020年3月10日発行
3,200円（税別）

誰もが共存を欲し、しかし自己の優越性は疑わない世界社会。宗教間の共鳴は可能か。

人間の本性
——キリスト教的人間解釈

ラインホールド・ニーバー 著
髙橋義文・柳田洋夫 訳

2019年4月25日発行
3,700円（税別）

「人間とは何か」を根源的に問い、状況に向き合う。

人間の運命
——キリスト教的歴史解釈

ラインホールド・ニーバー 著
髙橋義文・柳田洋夫 訳

2017年3月31日発行
3,700円（税別）

歴史の限界を踏まえつつ、その可能性と意味を問う。

聖学院大学出版会　TEL:048-725-9801　FAX:048-725-0324
URL:https://www.seigpress.jp